

# 心臓血管疾患 早期発見へ

若松の竹田総合病院  
岡野医師と臨床検査技師チーム

# 会津各地で出張診療

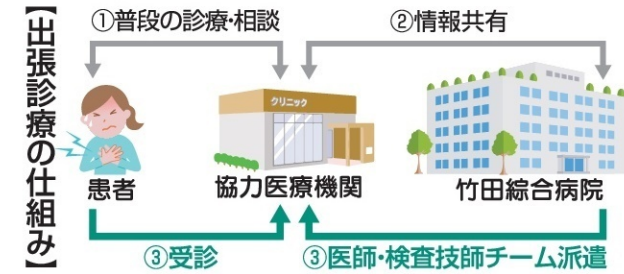
会津若松市の竹田総合病院は、会津地方の中山間地に住むお年寄りの心臓血管疾患を早期に発見しようと、各地の病院や診療所と連携して出張診療を行っている。2021年（令和3）年11月の開始から500人以上を検査・診察し、手術で命を救った患者は17人になる。診察を担当する岡野龍威医師（心臓血管外科）は「地域医療を支える新たなモデルにしたい」と話している。



出張診療を行う岡野医師（右）＝佐原病院

## 診療所などと連携、手術で17人救う

## 「地域医療新モデルに」



岡野医師によると、心臓血管疾患の診断は高い専門性が必要となる。しかし、会津地方で心臓血管外科がある医療機関は竹田総合病院を含めて会津若松市の2カ所しかない。会津地方では医師の偏在が指摘され、住民の高齢化が進む。岡野医師

は「交通手段の乏しい中山間地では、病気の進行に気付かず治療が遅れるケースがあるのではないかと考え、各地に出向いて対応することにした。岡野医師と臨床検査技師のチームが、月1回程度巡回している。取り組みに協力する喜多方市の

12月に佐原病院を訪れた。岡野医師の診察で大動脈瘤（りゅう）が見つかり、翌月に手術した。回復した今も定期的に佐原病院で岡野医師の診察を受けている。「足が悪いため、遠方の病院に通うのは厳しい。近くの病院に来てくれるのは安心

感がある」と感謝する。佐原病院の佐原圭理理事長も「よりの確な診断と適切な治療の提供ができるようになり、地域医療の充実につながる」と歓迎する。

冬は大雪などで山間部に向かうことができない場合がある他、小規模な診療所などではデジタル化が進んでいないといった課題もある。チームの人数に限りがあり、現時点では会津地方の全市町村に向くことは難しい。クリニックなどとオンラインでつなぎ診察するなど、ニーズに合わせて診療の支援を進めたいと考えた。術後のリハビリなどのアフターケアでも、専門職員を派遣しながら検査・診療力を増やすのを目指している。

岡野医師は「早めに所見が見つければ、事前の投薬での治療もできる。各医療施設と連携体制を構築しながら出張診療を続けていきたい」と話している。